

別紙様式 1

令和3年度使用中学校用教科用図書採択結果等について

採択地区名 三原市

種 目	発行者	採 択 理 由
国 語	三省堂	<ul style="list-style-type: none"> 単元の扉に、単元名とともに単元の目標を示している。教材の終わりの「学びの道しるべ」の部分に「思考の方法」として、身につける資質・能力が示されている。 「思考の方法」が示されている。動画や古典資料などの補助教材がある。各教材とも、冒頭に学習目標を示し、末尾に振り返る活動が設定されている。 「つきたい力」で単元が構成されており、教材一覧で学習の見通しを立てることができる。教材後の「学びの道しるべ」で考える手順を示している。「学びを広げる」で次の発展的な学習へつなげている。 「文法のまとめ」「読書の広場」「資料編」として全学年に示している。語彙を豊かにするために「語彙の広がり」でテーマに分け、学年ごとに別の語彙が紹介されている。既習した「読み方を学ぼう」の資料が巻末にまとめて示されている。 様々な文種・ジャンルの読書教材があり、小説の学習後に読書活動が設定されている。「ブッククラブ」等新たな読書活動がある。情報の探し方、引用や著作権等の「資料編」の内容が多い。実用的な文章の読み比べがある。各学年に取材し編集する「話すこと・聞くこと」と「書くこと」を結び付けた言語活動がある。
書 写	三省堂	<ul style="list-style-type: none"> 小単元ごとに目標が明記されている。写真・イラスト等もあり、書く時の姿勢や筆の持ち方・筆の運びなどが記載されている。 日常で使える書式がまとめてある。学習を進める上でのステップが多い。 「行書」の「書き方を学ぼう」では学習を7段階で示し、見通しを立てて学習できる。見開きの手本ページに基本点画を図示。書くときのポイントが一目でわかる。 「やってみよう」は、国語の各学年の学年末教材と同じ活動を取り上げ、手書きの作品例が紹介されている。普段の文字に生かせるように書き込みページが充実し、「日常の書式」に必要な書式がまとめられている。 「都道府県名」を書くなど社会科との関連、カリキュラム・マネジメントも配慮している。手書き文字の魅力を伝えながら社会で活躍する人物を紹介している。
社 会 (地理的分野)	帝国	<ul style="list-style-type: none"> 表の読み方などの技能を身に付けるための項目がある。 導入で多くの写真が掲載されている。まとめる方法、活動も豊富である。 写真・絵図・地図・図表グラフのバランスが取れている。 単元ごとに様々な方法でのまとめ方が提示され、イメージしやすい。
社 会 (歴史的分野)	日文	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題と見方・考え方が分かりやすく毎時間明示されている。 「学習の整理と活用」において学習の流れが明示されている。 「深めよう」コーナーで深い学びを促すよう工夫されている。 カラーユニバーサルデザインに対応している。

社会 (公民的分野)	日文	<ul style="list-style-type: none"> ・課題設定の表現がわかりやすく、何を学ぶか見通しを持って学習できる。 ・「見方・考え方コーナー」を全ての学習課題に設定されており、「深い学び」に繋がるよう工夫されている。 ・絵図や写真、表・グラフなどの資料が豊富で、合計 262 の掲載数である。 ・「アクティビティ」のコーナーに、学習内容の理解を深める問いや活動が 38 設定され、「見方・考え方」が深まる。
地図	帝国	<ul style="list-style-type: none"> ・「地図活用」のコーナーが随所に設けられており、地図を読み取る際のポイントや視点を明確に示されている。 ・地図中の標高や土地利用の色分けが鮮明である。 ・各ページに凡例が示されており、見やすく工夫されている。
数学	学図	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元の扉のページにおいて、単元全体を貫く課題が設定されており、学びがつながるよう工夫されている。 ・日常生活と深く結びついた題材を多用することで、生徒の学習に対する関心・意欲を高める工夫がなされている。 ・写真や挿絵、吹き出しを適宜提示しており、学習に対する興味や思考を深める工夫がなされている。 ・単元末に「深い学び」や「学びをひろげよう」など、社会で活用される数学を紹介し、思考力・判断力・表現力を育成する活動がある。
理科	啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ・資料が多く、理科と普段の生活との関連に関する記載が多い。 ・実験・観察の安全確保に関する記述が丁寧でわかりやすい。 ・巻末に「探究シート」「探究ラボ」があり、自分の考えを整理したり他者と意見交換したりできるよう工夫されている。 ・すべての実験・観察において、実験後、目的に沿った結果の分析・解釈ができていないか、振り返ることができるよう示されている。
音楽 (一般)	教芸	<ul style="list-style-type: none"> ・目次に続く学習内容のページに、三つの資質・能力と、それに対応する学習内容や教材を図示している。 ・「歌い継ごう 日本の歌」として、ポピュラーミュージックを含む合唱曲を扱っている。 ・歌唱教材では、曲の構成などについて表でまとめ、曲についての理解を深める手助けとなるページ（「深めよう！音楽」）が設定されている。 ・鑑賞教材では、聴き取ったこと感じ取ったことを整理したり、比較したりするワークシートが掲載されている。
音楽 (器楽合奏)	教芸	<ul style="list-style-type: none"> ・目次に続く学習内容のページに、三つの資質・能力と、それに対応する学習内容や教材を図示している。 ・アルトリコーダーの習得に向けて Lesson1～4 として、難易度を上げながら練習できる課題が示されている。 ・打楽器ページには、多くの種類の小物の打楽器の構え方や奏法が写真と文章により書かれている。 ・「楽器の図鑑」として、楽器の分類表をカラーで掲載している。
美術	光村	<ul style="list-style-type: none"> ・題材ごとに学習する目標を記載してある。題材の中には生徒がどのように考えて制作しているかの過程がわかる図解がある。学習する内容の視点をわかりやすく、ページごとに段階を踏めるようにしている。 ・題材のはじめに鑑賞を位置付け対話が生まれるような問いかけがある。 ・折込ページや大型図版は教科書の題材や学習内容に連動しており、作品によって紙質を変えて図版を見せている。 ・目標と連動した鑑賞の中心発問を表記し、個人・グループ共に思考のプロセスを見やすくしている。

保健体育	大日本	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のはじめに、「小→中→高」の学習の流れが示されている。 ・「本文」「資料」「活動」の場所が全てのページで統一されている。 ・読みもの資料が豊富である。 ・左側に本文，右側に資料等の配列で統一されており，文字に集中して読むことができる。
技術・家庭 (技術分野)	東書	<ul style="list-style-type: none"> ・学習方法やガイダンス等の内容が充実している。 ・すべての領域の内容がバランスよく配列されており，社会の発展と技術に関する内容が充実している。 ・各編が「編の導入」「基本ページ」「学習のまとめ」で構成されており，学習を深めるページやコラムが取り上げられている。 ・それぞれの授業場面で技術の見方・考え方を確認できるよう構成されている。 ・「社会からの要求」「安全性」「環境への負荷」「経済性」などを観点とした技術の最適化について考えさせる内容となっている。 ・作業工程の説明で大きな写真を掲載しわかりやすく説明している。
技術・家庭 (家庭分野)	東書	<ul style="list-style-type: none"> ・領域構成に工夫があり，生徒にとって全体的な学習の流れをつかみやすくなるよう工夫されている。 ・チャート式構成，分量，配置に優れている。特別支援の配慮が適切である。 ・実践的・体験的な学習を実施するための工夫として，調理実習の手順や，縫い方図や，住まいの図を大きくわかりやすく配置してある。 ・各編の導入ページで，小学校家庭科での学習内容のキーワードを示している。小学校の各教科等の学習内容との関連については「小学校」マークを示し，教科名，単元・題材概要を示している。
英語	東書	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の最初のページに，ゴール（題材「～について考える」，活動「～できる」），Point of View（単元を貫く問い），目的・場面・状況が明示されている。 ・単元の終わりに題材と活動のゴールが再び示されており，振り返りがしやすく，できるようになったことが実感できる。 ・1学年では日常生活に関する題材が多く，その他の学年では国際問題や環境問題なども扱われている。 ・技能を統合した言語活動が単元毎，また学期に1つ設定してあり，各単元や各学期のゴールが明確である。
特別の教科 道徳	光村	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の時に扱う題材があり，視点を変えて改めて学ぶことができる。 ・生徒自身が考えやすい発問になっており，自己を見つめ直すことができるようになってきている。 ・巻頭に「どうやって学ぶのか」「なぜ学ぶのか」「なぜいっしょに学ぶのか」という道徳を学ぶ意義についての記述がある。